

【大学教育再生加速プログラム（AP事業）】
テーマⅠ（アクティブ・ラーニング）・Ⅱ（学修成果の可視化）

外部評価委員 評価シート（5段階評価）

評価者名（ 小 杉 礼 子 ）

＜評価項目＞

1:具体的な取り組みに対する評価①:アクティブ・ラーニング

テーマⅠ（アクティブ・ラーニング）に関する取り組みは評価できるか。

5段階評価	コメント
※該当するアルファベットに○をつけてください。 A :うまくいっている <input checked="" type="radio"/> B :どちらかといえばうまくいっている C :どちらともいえない D :どちらかといえばうまくいっていない E :うまくいっていない	AP型インターンシップを通じたアクティブラーニングは、リフレクションカレッジやキャリアチューターといった仕組みを取り入れ、学生の能動性を引き出すことにより成功していると思われる。 ただし、現段階では一部の学生、一部の教員にとどまっており、これをさらに全学に広げていくためには、御学がすでに認識されているとおり、いくつかの課題があり、さらなる取り組みを期待したい。

2:具体的な取り組みに対する評価②:学修成果の可視化

テーマⅡ（学修成果の可視化）に関する取り組みは評価できるか。

5段階評価	コメント
※該当するアルファベットに○をつけてください。 <input checked="" type="radio"/> A :うまくいっている B :どちらかといえばうまくいっている C :どちらともいえない D :どちらかといえばうまくいっていない E :うまくいっていない	学修成果の可視化については、KUIS学修ベンチマークが設定され、eポートフォリオを通じてリフレクションを繰り返す仕組みが構築され、学生が自らの成長と課題を可視化して認識することができており、うまくいっていると評価できる。 また、ベンチマークの内容についてもインターンシップ受入企業との意見交換を行い、その意見を取り入れるなど、産業界との意見交換に意欲的であったことも高く評価できる。 （なお、評者としては、産業界側の能力観と大学教育における能力観と一致しないのは当然だという立場であり、デュプロマサプリメントがそのまま応募書類となることと学修成果の可視化とは別の問題だと思っている。）

3:総合評価

事業の目的を達成し、大学改革の加速につながったか。

5段階評価	コメント
※該当するアルファベットに○をつけてください。 <input checked="" type="radio"/> A :目的を達成している B :どちらかといえば達成している C :どちらともいえない D :どちらかといえば達成していない E :達成していない	全体としては、当初の目的を達成し、今後、他の大学においても活用できる多くの知見を提示したと思われる。

【大学教育再生加速プログラム（AP事業）】
テーマⅠ（アクティブ・ラーニング）・Ⅱ（学修成果の可視化）

外部評価委員 評価シート（5段階評価）

評価者名（ 深 澤 晶 久 ）

<評価項目>

1:具体的な取り組みに対する評価①:アクティブ・ラーニング

テーマⅠ(アクティブ・ラーニング)に関する取り組みは評価できるか。

5段階評価	コメント
※該当するアルファベットに○をつけてください。 (A) :うまいっている B :どちらかといえばうまいっている C :どちらともいえない D :どちらかといえばうまいっていない E :うまいっていない	◆インターンシップが採用活動の一部と化している昨今の環境下において、大学と企業が、本来の目的に向けて、AP型インターンシップを作り上げたプロセスは、極めて意義深い取り組みであったと考えます。 ◆とりわけ大学と産業界の評価基準のチューニングに真っ向から取り組み、さらに就業体験型から課題解決型・探求型へと進化出来たことも、今後のインターンシップのあるべき姿、いわばロールモデルになるものと考えます。 ◆一方、報告書にも記載の通り、発展的インターンシップを目指した際に顕在化する「専門的な発問」のことや、担当教員ならびに受け入れ企業の負担はかなり大きいものになることは事実であり、この点については、大学教育の今後のマクロ的な視野からの改革の中でとらえる時流を作るきっかけとしたいと思います。

2:具体的な取り組みに対する評価②:学修成果の可視化

テーマⅡ(学修成果の可視化)に関する取り組みは評価できるか。

5段階評価	コメント
※該当するアルファベットに○をつけてください。 (A) :うまいっている B :どちらかといえばうまいっている C :どちらともいえない D :どちらかといえばうまいっていない E :うまいっていない	◆KUIS学修ベンチマーク、eポートフォリオ、そしてリフレクションデイと積み上げられた仕組みは、学生一人ひとりを丁寧に育てようとする貴学ならではの取り組みであると考えます。しかも、大学側の自己満足に終わることなく、学生の活用度の上昇も認められ、今後の更なる発展と定着に期待しています。 ◆一方、その集大成ともいえる関西国際大学版ディプロマサプリメントについては、企業側の受け止めが極めて残念であったと思います。どのような資料であるかも理解されておらず、そもそも成績証明書も参考程度にしか使用されていないのが実状と言えます。本事業の目的が、大学と産業界との間の現状認識や課題を共有し、「評価の観点や尺度を共有する仕組みを構築する」すなわちチューニングが柱であったことを考えると、企業側には、再考を促したいと考えます。

3:総合評価

事業の目的を達成し、大学改革の加速につながったか。

5段階評価	コメント
※該当するアルファベットに○をつけてください。 (A) :目的を達成している B :どちらかといえば達成している C :どちらともいえない D :どちらかといえば達成していない E :達成していない	◆本事業開始以前から、現在の大学改革の内容を先取りされて、様々な取り組みに着手されてこられた点を高く評価するとともに、今後も大学改革の旗手として発展されることを心から期待したいと思います。 ◆しかしながら、テーマⅡにも記した通り、大学と産業界のチューニングという課題は、永遠の課題でもあり、なかなか抜本的な解決への突破口が見つからないことも事実かと思えます。平田オリザ氏によれば、「産業界の、教育のことなど何も分からない人々が、極めて近視眼的な展望だけで、外から教育をゆがめている」とも言われており、今後も、貴学が取り組みを継続されることで、大学教育の変化のムーブメントが起こり、産業界への理解の促進につながってくれることを期待したいと思います。 ◆報告書の最後に記載されている通り、今回の一連の取り組みが、大学教育全体を大きく再生・発展していくプログラムに仕上げていかれることを切に願います。外部評価委員として、お力になれなかったこと、心からお詫びを申し上げますとともに、引き続きご指導のほど、よろしく願いたします。